

熊本地震 支援活動広がる

江陵高は募金呼び掛け

熊本地震の深刻な被害状況を受け、十勝で義援金受け付けなどの動きが広がっている。日本赤十字社帯広市地区（地区長・米沢則寿市長）などが窓口を開設している他、江陵高校（幕別）でも18日、生徒会が自主的に募金活動を始めた。

江陵高校（鈴木譲二校長、生徒387人）の募金活動は、被災地の状況をテレビなどで見た生徒会（新谷真生会長）が発案。22日まで毎朝、手作りの募金箱を1、3年生の各教室に設置して昼に回収し、集まったお金を被災地のために寄付する。

18日はホームルームの時間などを活用し、各教室で学級委員らが募金を受け付けた。協力した2年生の佐々木幸子さん（16）は「熊本城が崩れている映像はショックを受けた。同じ日本でも私たちは普通に生活しており、一方で困っている人もいる。募金活動が役に立てば」と願った。

同校生徒会は2011年の東日本大震災や、13年のフィリピン台風被害などのときも募金活動に取り組んだ。新谷生徒会長（3年）

は「何か災害があれば全校生徒に呼び掛けたり、街頭に立ったりしてきた。少しでも役に立ちたい」と話している。（眞尾敦）

鹿追駐屯地 47人が出発

炊事や給水支援

【鹿追】陸上自衛隊第5旅団（司令部帯広）の第5戦車大隊（植田宜孝大隊長）が17日午後、熊本地震の被災地支援のため鹿追駐屯地を出発した。写真。23日に現地に到着し、支援活動を開始する予定。

第5戦車大隊からは、生

義援金受け

帯広市共同募金

帯広市共同募金会（事務局・市社会福祉協議会）は熊本地震の義援金受け付けを始めた。東日本大震災時と同様、送金と持参の両方を受け付けるが、送金の場合の振込口座は18日昼時点で調整準備中。

生徒（18日午前8時50分ごろ）

